

# 電力 選択の時代へ

山陰の現場から

「中国電力の電気を使い続ける場合も手続きが必要なのか」「どんな料金メニューがあるのか」

4月の電力小売り全面自由化を控え、鳥取県が1月中旬、米子市内で開いた説明会。集まった市民ら約60人から質問が相次いだ。

「各家庭の使用状況に応じて、どのような電力メニューが最適なのかを比べてほしい」。経済産業省の第三者組織、電力取引監視等委員会の青柳あさ子事務局担当の説明に、同市河岡の無職、澄田豊さん(77)は熱心に耳を傾けた。

オール電化の一戸建てに妻(69)と2人で暮らす澄田さん。年金暮らしで、月7千〜1万円の電気料金を「少しでも安く抑えよう」と足を運んだが、選択肢の多さに「検討すべきことが

## 生活様式も見直し

4月以降は消費者自らが

電力を選ぶことができる、冷町)は昨年2月、店舗のこれまででない環境となる。ただ、澄田さんのように思案する人は少なくない。参考になるのが家庭向けに先立ち自由化された産業分野。一部の企業が一足先に電力の選択を経験してきた。

島根県内にスーパー7店を構えるウシオ(出雲市塩

調し、切り替えに迷いはな

0時時の条件で検索する

都圏では、数多くの新電力

# メニュー多彩判断手探り

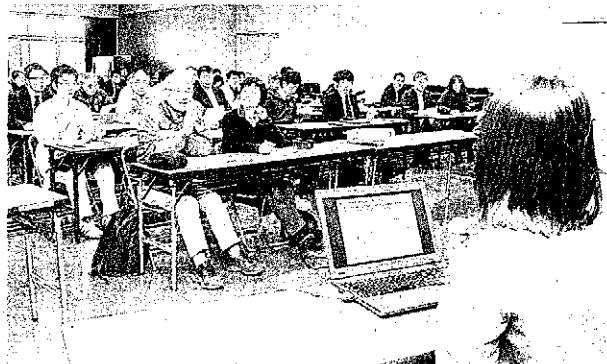
だったという。

一方、契約内容によって

消費者の選択基準は料金

一方、新電力のシェアが

## (下) 消費者の目



電力小売り全面自由化に関する鳥取県主催の説明会で、経済産業省の担当者(右)に質問する市民ら＝1月18日、米子市糺町1丁目の鳥取県西部総合事務所

「最適な業者を吟味することが大切」と経験を基に語った。乱立する新規参入企業の中には、倒産などの恐れがある業者がないとも限らず、慎重な判断が要る。

電料金の比較サイト「エネチェンジ」を使い、家族4人で月間使用量40

確認や見直しの意義が高まる。一目と同時に、生活様式の消費者の多くが手探り状態のまま、自由化の扉が闢もなく開く。

## 山陰総論

購読の申し込みは

TEL01200(49)2550(午前9時30分〜午後5時30分)

首都圏新勢力9.9%

巨大マーケットがある首都

(広島支社・三浦純一、政経部・錦織拓郎が担当しました)

### クリック

電気の契約 電気の契約先を切り替える場合は、消費者が新たに契約を結ぶ事業者に直接申し出る。現在契約する電力会社への断りは不要。購入先を変えても電気の品質は変わらず、新たに電線を引く必要はない。4月までに事業者と契約を結ばなくても、既存の電力会社から引き続き電気が供給される。